

## 令和2年度空大セミナーについて（H. P. 掲載）

令和2年12月、米空軍大学のジャスパー博士、SWFのウィーデン博士、ミッチェル研究所のガンジナー博士及びランド研究所のチェイス博士に発表を頂き、非常に有意義なセミナーを実施することができました。詳細は、次のとおりです。

### 1 概要等

#### (1) 日時

令和2年12月18日（金）0700～1120

#### (2) 場所

幹部学校中講堂を主会場とし、オンライン（ZOOM）により、市ヶ谷及び府中並びに国内外参加者を接続

#### (3) 参加者等

##### ア オンサイト

幹部学校長、副校長、航空研究センター長他約30名

##### イ オンライン

在宅勤務者、国外（米国・豪州）参加者及び国内聴講者等約60名

#### (4) プログラム

0700～0705 主催者挨拶（学校長）

0710～0720 参加者紹介

0720～0830 第1部「技術革新の現状（宇宙・サイバー）」

0835～0945 第2部「新たな技術の出現と防衛戦略」

0950～1100 第3部「今後の多国間協力の方向性」

1110～1120 閉会挨拶（副校長）

### 2 主要成果等

#### (1) 各発表から、次の資を得た。

ア ロシアによるサイバー攻撃が、政治的意図や活動と密接に関連して巧みに実行されていることを理解した。また、その対策には、戦略的側面と技術的側面からのアプローチが重要であることを認識した。

イ 宇宙における抑止について、宇宙の特性から、従来の抑止をそのまま適用することが困難であることを理解した。法規範化などのコミュニケーションを通じて、ルールに従わせる「**compellence**（強要）」の有用性について示唆を得た。その上で、抑止については、脅威を除去する拒否的抑止の考え方にシフトしてきているとの説明から、今後の研究への資を得た。

ウ 新たな技術の出現と防衛戦略に関し、低コスト・消耗再利用型無人機（A/R UAVs : Low-Cost Attritable/Reusable UAVs）のメリットや、今後考え得る作戦構

想について理解した。また、ミサイルと航空機との対比に基づき、A/R UAVs をその間を埋めるものと位置付けた点は、航空防衛戦略を考える上での示唆を得た。

エ A/R UAVs や極超音速兵器を用いるには、新しい作戦コンセプトが必要になる。その際、既存のテクノロジーとの融合についても検討することが求められる。

オ 中国の統合的戦略抑止について、中国側の抑止力を高めるための取り組みに係る知見を得た。特に、中国の活動について、抑止を念頭に置いたシグナル（「意図の伝達」）として捉えることの重要性を認識した。

カ 今後の多国間協力の方向性に関し、米国の対中認識及び対応の方向性について知見を得た。また、米空軍は「変化」の必要性を強く認識し、その危機意識を軍上層部から下士官に至るまで共有し、方向性を合わせて具体的な施策を推進しようとしている点を理解した。

キ 日米協力に係る現状を踏まえ、今後の具体的な取り組みについて日米双方の参加者によって議論を実施した。JADC2（ABMS）を介した連携を考慮するにあたり、抗たん性やリアルタイム性確保等の検討を深化すべき事項を見出した。

